

## 「危機的な状況の中に生きる者として」

早くも5月を迎えています。とても過ごしやすい時期です。毎日の何気ない単調な繰り返しの中にも、神様の愛と恵み、そしてあわれみといつくしみが確かに注がれています。神様は真実なお方だからです。



皆さんはこのゴールデンウィークをどのように過ごされたでしょうか。一昨年や昨年と比較してさまざまな制限が緩和されて、自由に行動し、いろいろな地域へお出かけされた方々も多くおられることと思います。円安ですので、海外に行くことをためらう方々は、国内旅行をされたかもしれません。振り返りますと、コロナ禍において日本はいくつかの外国のように法律上「ロックダウン」することはできず、ただ「緊急事態宣言」に基づいて外出自粛を要請したり、「蔓延防止重点措置」などにとどまりました。これらの政策が果たしてどうであったのかということの検証が本来求められます。飲食店や商業施設の営業時間が制限されたり、閉店、廃業を余儀なくされたところも多くあります。私たちはそのような「宣言」や「措置」が出されても神様を第一にして礼拝のために集まることをやめることはせず、集会をささげてきました。それは聖書に従ってきたからです。

**「ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合ひましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。」(ヘブル11章25節)**

特に2020年の夏の甲子園が中止になったことは選手たちにとって一生に一度のことですので、残念なことだったと思います(2023年にはその代表校が甲子園に集結し、期間限定で試合をしたようです)。「高野連」(こうやれん)に限らず、日本政府が国民に対して要請することがすべて正しいとは限りません。また厚生労働省が発表していることがすべて信頼できると考えることもできません。振り返りますと新型コロナワクチン接種は任意でありながら、そのワクチンのメリットばかりが強調され、デメリットは十分に説明されませんでしたし、メディアなどを用いて半ば強制的でした。その結果、日本のワクチン接種回数は世界一でありながら、感染者数が世界一であったり、超過死亡数(予測値に比べてどれほど上回っているか)は40万人ともそれ以上とも言われる事実はきちんと調査すべきことであろうと思います。全国有志医師の会【医師462人、歯科医師185人、獣医師79人、その他の医療従事者866人の合計1592人】(2024.4.1現在)によると、新型mRNA型ワクチンはさまざまな後遺症を引き起こしているのみならず、予防接種健康被害救済制度認定件数が5526件、死亡に関わる認定件数381件です(2023.12.22チラシ公開)。最近のニュースでは、ワクチン約2億4000万回分が期限内であっても破棄され、金額にすると6653億円です。またコロナワクチン被害者遺族が国を集団提訴したこともニュースに取り上げられていました。

世界では承認されていない新しいレプリコンワクチン(自己増殖型ワクチン)は唯一日本だけが承認し、すでに治験も進められ、日本国内にはいくつもの工場が建てられています。日本だけが唯一の治験国家です。少し専門的になりますがWHO(世界保健機関)が勧めようとしている「パンデミック条約」や「世界保健規約(IHR)改定」などもぜひ調べていただくと、私たちに与えられた基本的人権などが奪われつつあります。WHOという組織を妄信せずに、どのような組織であるのか、またこれからどのようなこと行おうとしているのかを、キリスト者である私たちであっても注目する必要があります。なぜならば信仰によって「永遠のいのち」が与えられているとしても、今、尊い「このいのち」は神様から与えられているからです。

すでにこの日本でも情報統制や言論統制が行われていますが、さらに加速しています。何を申し上げたいのかと言いますと、私たちはこの社会において指導的立場のある人たちのために祈ることはもちろんのこと、明らかに間違った方向に進もうとしているならば、教会全体として警告していく側面もあります。たとえ社会がどのように変わっていったとしても、人生の礎(いしずえ)であり、救い主イエス・キリストを信じる信仰に堅く立ち、私たち教会の存在を通して、主の素晴らしさが現わされることを願い、祈り求めます。